

令和7年度

岩倉小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎的・基本的事項を身に付けさせる指導の継続
- ②考えを深めるための書いたり話したりする活動の充実

校長

磯村 淳

学力向上推進員

藤本 美穂

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや四則計算など、「知識・理解」の領域においては、ある程度の定着が見られる。 ●問題を的確に読み取る力や自分の考えを書く力、習得した知識等を実生活の中で活用することができていない。	・言語および数量や図形に関する基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け、実生活で活用することができる。	・全校で統一した振り返りの仕方を具体化して、掲示する。 ・各学年の実態に合わせた教材を用いる。また、読解ドリルに取り組む曜日を全校で統一する。 ・「自己の力で読解ドリルの7～8割の問題を正答できる」といった具体的な目標を設定する。	・現状の取組を維持する。	・全校で統一して、ドリル学習の曜日を設定し、学習時間を確保することができた。 ・読解ドリルの正答率7～8割の目標に達することはできなかった。 ・教室に「振り返りの仕方」を掲示することはできたが、それを上手く活用することができなかった。	・理解に差があるため、学年や個に応じた教材を使って、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 ・「振り返りの仕方」の活用について全校で統一する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話し合いや学級会を通して、理由を明らかにして自分の考えを発表できるようになってきた。 ●課題に応じて、必要な情報等を取り入れたり、他者の話を聞いて自分の考えをまとめたりすることに課題がある。	・学習したことを活用し、根拠や理由を明らかにして、自分の考えを書いたり発表したりすることができる。 ・友だちと自分の考えを比べながら話を聞き、自分の考えを振り返ることができる。	・思考ツールの活用方法を教師間で共有する。 ・「聞き方名人」を全校で統一し活用方法を具体的に決める。 ・PBSの手法で、さらに聞く力の育成に努める。	・静かに話を聞くことができた時間を計って褒めるといった「できたこと」を視覚化する。	・場面や状況に応じて思考ツールを活用することができた。 ・「聞き方名人」を全校で統一して、活用することが難しかった。	・学習や話し合いに役立つような思考ツールを、MetaMoJi ClassRoomを使って、共有する。 ・良い聞き方を提示し、全校で統一して聞き方についての指導を行う。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○宿題等、与えられた課題について真面目に取り組むことができる。 ●主体的に学習に取り組むことができるが、自己の課題を把握し、苦手な学習内容に対して、自分で計画を立ててやり抜く粘り強さに課題がある。	・自分の苦手な課題に応じてICT機器やプリントなどを使って主体的に学ぶことができる。	・課題をいくつか提示して選択できるようにするなどの工夫を行う。 ・子どもたちが単元計画を立てることができるような授業実践をする。 ・教師間でワークシート等を共有し、準備の効率化を図る。	・現状の取り組みを維持する。	・課題を自分で選んで学習したが、自分でできる内容を選んでしまう傾向があり、さらなる学力の向上につなげるまでには至らなかった。 ・MetaMoJi ClassRoomでワークシートの共有はできているが、授業中にグループで出た意見をまとめたり、ICT機能を使っての発表をしたりといった活用には至っていない。	・100マス計算や本に関するクイズなどの勉強に関するイベントを行い、児童が自己の目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする手立てを考え、共有する。 ・「各学年に応じた自主勉ノートの実践例を共有する」といった児童が主体的に学習に取り組むための自主勉ノートの活用方法について、共通理解を図る。